



# 未来に向かってあなたはどんな進路を選びますか？



理想のワークライフバランス実現のために、

本校卒業生の研究者、研究者を目指す先輩の"声"をみつめました。

## CONTENTS

03

センター長あいさつ  
先輩たちのキャリア

賢明学院中学高等学校 教諭

山田 佳奈

05

07

兵庫県公立高等学校 教諭

伴 菜摘

声屋市立岩園小学校 教諭

高橋 那津美

09

11

(医) 松田クリニック・メンタルヘルス  
健育研究所

吉岡 由美

13

武庫川女子大学  
健康運動科学研究所  
嘱託助手

北浦 舞

西日本旅客鉄道株式会社

吉岡 寛子

15

17

帝塚山学院  
人間科学部 食物栄養学科 講師

小林 知未

19

武庫川女子大学  
情報メディア学科 講師

和泉 志穂

株式会社日建設計  
設計部門

尾崎 綾

21

23

武庫川女子大学  
音楽学部 非常勤教務助手

諸岡 由依

25

大鵬薬品工業株式会社  
コンシューマーヘルスケア開発企画部  
研究室

藤本 有未

大阪大学医学部附属病院 看護部  
キャリア開発センター・教育実践室

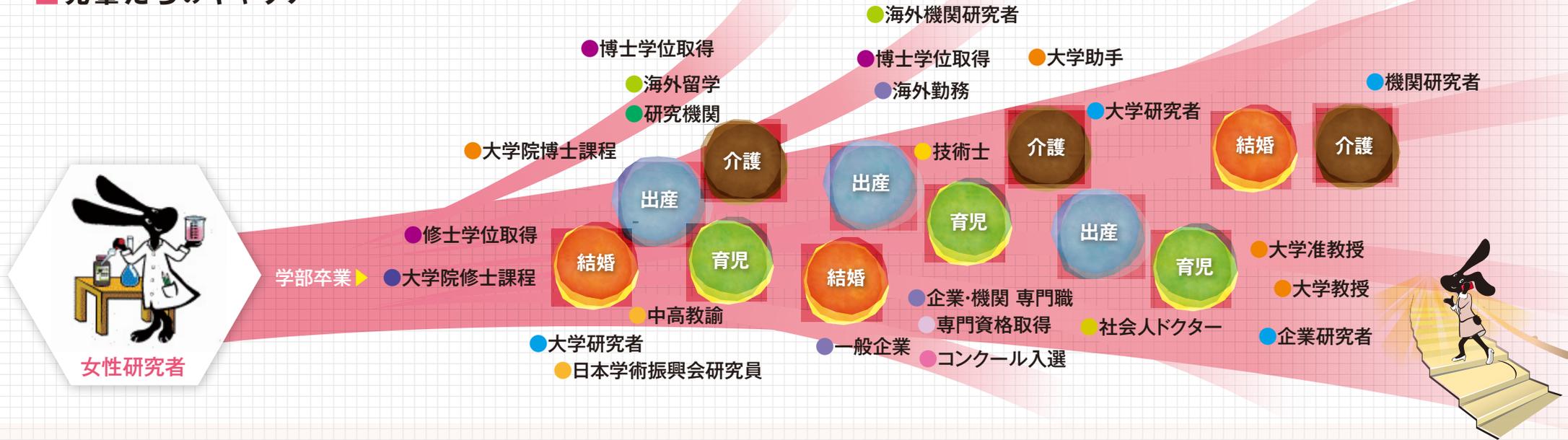
谷川 茜

27

29

女性研究者  
支援センターの  
取り組み

## ■先輩たちのキャリア



## センター長あいさつ

今、社会は女性の活躍を求めています。

2019年、武庫川学院は創立80周年を迎えます。本学は、「幅広い教養と豊かな人間性を育む 全人教育を実践し、人・家庭・社会に貢献できる女性の育成を目指す」とする教育目標のもと、「主体性・論理性・実行力」を培う教育を推進し、優れた人材を18万人、社会に送り出してきました。多くの卒業生が、企業、行政、教育機関さらには資格を用いて社会に貢献してきました。この間、80年の歴史のなかで、先輩の活躍を見ながら後輩が後について行くという場面も多くあり、また、後輩の悩みを先輩が助言するようなこともありました。まさに、「武庫川魂」が築かれ引き継がれてきた証だと思えます。その1つが、このロールモデル集です。各学科の卒業生がご自分のキャリアを分かり易くまとめておられます。是非、参考にしてください。

さて、本学院では、社会のあらゆる場面に女性が参画し、主体的な役割を果たすことを支援する『女性研究者支援センター』があります。センターでは、若手研究者を育成するため、キャリア形成、研究の国際化、調査・広報などのさまざまな活動を展開しています。活躍されている先輩の講演、海外からの支援等もあります。これからも100周年に向けて「武庫川魂」が引き継がれ、繋げていくことを期待しています。

今後とも協力、ご支援頂きますようお願い致します。

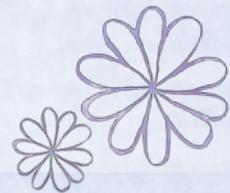
女性研究者支援センター センター長 高橋享子

## ロールモデル (vol.1~3で紹介、女性研究センターWEBで公開中 ●数字は、ロールモデル集の巻号)



日本語日本文学	井上 幸さん <sup>①</sup> 設楽 馨さん <sup>①</sup> 郡 千寿子さん <sup>②</sup> 羽生 紀子さん <sup>③</sup>
英語文化学・英語英米文学	西尾 亜希子さん <sup>②</sup> 前原 澄子さん <sup>②</sup> 木村 麻衣子さん <sup>③</sup>
心理・社会福祉学	三浦 彩美さん <sup>①</sup> 宮内 砂緒里さん <sup>①</sup>
教育学	新井 彩さん <sup>①</sup> 中村 真理子さん <sup>①</sup>
健康・スポーツ科学	芦田 悠さん <sup>②</sup> 五藤 佳奈さん <sup>③</sup>
臨床心理学・臨床教育学	中道 莉央さん <sup>②</sup> 竹内 美保さん <sup>②</sup> 寺井 朋子さん <sup>③</sup>
生活環境学	水谷 千代美さん <sup>①</sup> 古濱 裕樹さん <sup>①</sup> 徳山 孝子さん <sup>①</sup> 水野 優子さん <sup>②</sup> 見寺 貞子さん <sup>③</sup>
食物栄養学	村上 亜由美さん <sup>①</sup> 本田 まりさん <sup>①</sup> 木下 明美さん <sup>①</sup> 小林 知未さん <sup>②</sup> 増村 美佐子さん <sup>③</sup>
情報メディア学	榎並 直子さん <sup>①</sup> 白井 詩沙香さん <sup>③</sup>
建築学	森本 順子さん <sup>②</sup> 山口 彩さん <sup>③</sup>
音楽学	松川 南海さん <sup>①</sup> 竹原 直美さん <sup>①</sup> 多田 秀子さん <sup>②</sup> 上田 智美さん <sup>②</sup> 石川 典子さん <sup>③</sup> 青木 智美さん <sup>③</sup>
薬学	吉川 紀子さん <sup>①</sup> 鳥取部 直子さん <sup>①</sup> 小川 優子さん <sup>②</sup> 阿部 直美さん <sup>②</sup> 木本 絵美さん <sup>①</sup> 中瀬 朋夏さん <sup>③</sup> 上野 萌さん <sup>③</sup>
看護学	片山 恵さん <sup>③</sup>

# 相手のメッセージを受け取り、 思考して、自分のメッセージを発する。



賢明学院中学高等学校 教諭  
**山田 佳奈** *Kana Yamada*

## ■ プロフィール

2009年 近畿大学文芸学部卒業  
2011年 近畿大学大学院文芸学研究所修了  
2016年 武庫川女子大学大学院文学研究科修了  
(取得学位：博士(文学))

## ■ ワークライフバランス

大学卒業→大学院修士課程修了(修士課程の間1年、高等学校で非常勤講師として勤務)→大学院博士課程修了(博士課程の間2年半ほど、中学高等学校で非常勤講師として勤務)→現職(1年目は常勤講師として、2年目より専任教諭に。現在3年目。)

### Q 大学院での研究内容を教えてください。

**A** 大学院では、近現代文学、ことに太宰治を研究していました。私は修士課程までは武庫川ではない他大学に所属していました。学部から太宰治を研究していたのですが、武庫川の博士課程に入学するまでは、後の研究テーマとなる太宰の女性語りとはよばれる作品群には関心がありませんでした。女性語り作品とは、文字通り女性が語り手となり、感じたり考えたりしたことを自身の目から語る作品です。「斜陽」や「ヴィヨンの妻」をはじめ、全部で16作あると言われています。この作品群に関心を持つきっかけをくれたのが、武庫川女子大学のたつみ都志先生でした。

縁あって先生のもとで博士課程の研究を進めることになりましたが、先生は研究指導や立ち居振舞いを通して、女性としていかに生きるべきかを教えてくださいました。それまで私は、女性であることを強く意識したことがありませんでしたが、それはきちんと向き合っていなかっただけだと気づきました。そんな私にとって、様々な悩みを抱えながらも必死で悩みを語る女性語りの女性たちは、とても魅力的でした。今でも、私にとって大事な研究テーマです。

### Q 現在の研究分野・仕事内容とその面白さは何ですか？

**A** 私は現在、中高一貫・私立のミッションスクールで働いています。今は高校2年生の選抜クラスの担任をしながら、高2全6クラスの現代文を担当し、宗教部に所属、卓球部の顧問を

しています。正直なところ、葛藤と戦いの毎日ですが、誰かの役に立てているかもしれないと思うことがあり、「先生！」と嬉しそうな顔でかけよってくる生徒さんを思うと、仕事内容の奥深さと意義を感じます。

恩師である武庫川女子大学の山本欣司先生に言われたことがあるのですが、教師という職業の面白さは、自分がしてきた研究の過程を、実社会で生かせるという点です。日々の授業はもちろんのこと、生徒や保護者の方と向き合い、同僚の先生方とコミュニケーションを取る中で、大学院での学びがいかにかに実学であったかに気づかされます。相手のメッセージを受け取り、思考して、自分のメッセージを発する。これはまさしく研究で培ってきた能力です。自らの研究人生が生かせる職場にいられることを、心から感謝しています。

### Q 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

**A** 幼い頃から学校ごっこが好きで、教職に対する憧れがありました。

その思いは年齢を経ても変わらず、大学院修士2年生の時に、非常勤講師として働き始めました。正直なところ私は、院生の間は大学院の研究に専念しようと考えていたのですが、近畿大学での恩師に働きながら学ぶことの大切さを諭され、それが大きなきっかけとなってチャレンジすることにしました。武庫川に移ってからも、基本的には非常勤講師をしながら研究を続けました。

文章にするとあつという間の出来事のように自分でも感じま

すが、たとえば博士論文の執筆がうまくいかない時などは、自分に両立は無理だと嘆くことがありました。しかし、この経験と武庫川の先生方のすすめのおかげで今の職場に出会えたと思うと、今ではありがたい気持ちで胸がいっぱいになります。

### Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか？

**A** ただひたすらに、その時すべきだと思ったことを丁寧に積み重ねてきました。その方法が良いか悪いのかはわかりませんが、不器用な私にはそれしかできませんでした。いまだ夢ばかりですが、自分が納得のいく回答ややり方を見つかるまで、妥協せずに事に向き合う姿勢を大切にしています。そのために、何より時間の使い方に気をつけています。私は覚えが悪いので、些細なことであっても心が動けばメモを取り、週の終わりには翌週すべきことをピックアップして、一週間の時間の使い方を考えることを習慣にしています。自分や他者の気持ちに寄り添える時間を確保できるよう、タイムマネジメントを心がけて気持ちの余裕を持つようにしています。

## Spotlight

### 私の癒し

やはり音楽です。音楽を聴いているときは、気持ちがリフレッシュでき、自分が大切にしていることやものを、思い出すことができます。写真は最近購入したワイヤレスイヤホンです！通勤時に使っていますが、今や手放すことが出来ない必需品となりました。また、休日にラジオを聴きながら掃除をする時間も大好きです。こちらもやっぱり音楽ですね(笑)。



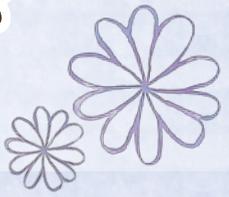
### Q 大学院を目指す(後輩)女性へアドバイスををお願いします。

**A** 自分の心が出した答えを大切にしてください。大学院への進学を試みる誰もが、みなにその道を賛成されるわけではないと思います。おこがましくも私は、研究職につくことが夢でした。ただただ、太宰治や近代文学を深く知りたいという思いだけで突っ走ってきた私です。自分が選んだ道に後悔はありませんが、そんな私でも「別の生き方があったかも」と思うことがあります。

私くらの年齢になると、周りの友達は結婚して子どもが生まれたり、キャリアウーマンとしての地位を築きあげはじめています。そんな中で私は研究職にもつづけ、教師としても道半ばで、自分は何をしてきたのだろうと心が折れそうになる日があります。

ですが、そうした思いをしてでもやりたいことが、私の場合は研究でした。もちろん一度に沢山のものを手に入れる方もいらっしゃいます。だからこそ、じっくりと長い目で、一度自分のキャリア設計を考えてから進学されることが大切だと思います。それが、今後の困難に立ち向かう自らを励ましてくれると考えるからです。

# 英語の力を磨くために勉強し続けることができるのも英語教員の魅力の一つ



兵庫県公立高等学校 教諭

伴 菜摘 *Natsumi Ban*

## ■ プロフィール

PROFILE

2013年 武庫川女子大学文学部英語文化学科卒業  
2015年 武庫川女子大学大学院文学研究科英語英米文学科修士(文学)取得

## ■ ワークライフバランス

WORK LIFE BALANCE

大学卒業→大学院入学→教員採用試験合格→大学院修士課程修了→兵庫県公立高校勤務

Q 大学院での研究内容を教えてください。

A 大学院では、大学在学中に研究に取り組んだイギリス文学家のJane Austen について主に研究しました。大学在学中に彼女の作品の「Northanger Abbey」について研究し、大学院では「Pride and Prejudice」を取り扱い、作品についてだけでなく、作者や当時のイギリスの文化や暮らし、階級社会などの社会的背景や女性たちの生活などについても知識を深めることで、作品中に表現されるAustenの考えるprideとは何かということテーマに様々な角度から研究を行いました。また、文学についてだけでなく、英語学や英語教育学、第二言語習得についてなど多くの分野から英語を学びました。大学時代とは異なり、講義で扱う論文や教材は難しいものばかりで、高度な知識が求められることが多く、準備や復習に時間もかかりましたが、少人数の講義で非常に手厚くご指導いただいたおかげで、原点に戻り英語を学ぶことで知識を深めることができました。



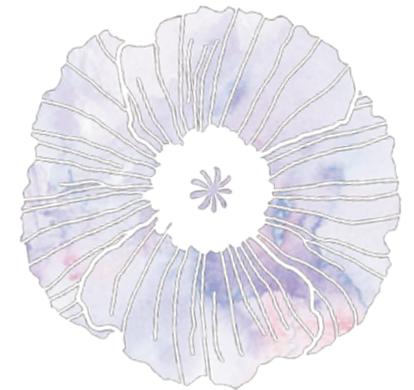
Q 現在の研究分野・仕事内容とその面白さは何ですか？

A 現在は、兵庫県の公立高校で教諭として働き、英語の指導やホームルーム担任、部活動の顧問などを行っています。今は高校3年生の担任をしているため、生徒の進路について調べ共に考え悩みながら日々過ごしています。部活動と一緒に汗を流してプレーをすることもあります。ふとした瞬間に感じる生徒の成長や、学校生活を通して生徒と大きな達成感を共有できることがこの仕事の面白さだと感じています。特に3年生では、生徒が努力を重ね一緒に準備をしてきた第一志望の大学に合格し、報告に来てくれたことは忘れがたい経験です。また、生徒が直面している自身の課題に対して、必死に向き合い乗り越えようとする姿を間近で見ることができるのも貴重な経験の一つだと思います。入学時から過ごしてきた今の生徒たちが笑顔で卒業できる日を迎えられるよう日々奮闘中です。また、大きく変わりつつある英語教育や大学入試などについても対応できるよう、日々研鑽し続ける必要があります。英語の力を磨くために勉強し続けることができるのも英語教員の魅力の一つだと思います。

Q 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

A 大学在学中、進路について考えているときに大学時代にお世話になった先生に進学を勧めていただいたことがきっかけで大学院進学を決めました。大学卒業時に英語について何を学んだかということ振り返った時、まだまだ知識が浅い自分に気づき、英語についてより専門的に学びたいと思うようになりました。また、大学時代は教員の仕事を考えていなかったため、大学院在学中に教職について学び、実習や授業を通して、長い時間をかけて生徒と関わり、人生における転換期を迎える生徒たちの進路実現に関わり、英語を専門的に扱う教員の道を考えるようになり、高校の英語教員を目指しました。修士論文や大学院での講義の合間に教員採用試験の勉強をして、修士2年のときに教員採用試験に無事に

合格することができました。振り返れば、高校時代は英語が得意ではなかった自分が、色々な先生方との出会いや大学時代の経験から英語教師となり、大学院進学がきっかけで人生が大きく変わったように思います。これまでの様々なご縁に感謝し、これからも一人でも多くの生徒の力になれるよう頑張りたいと思います。



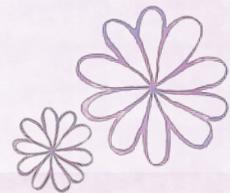
## Spotlight

### ストレス解消法

私のストレス解消法は「旅行」です。普段は土日部活動があるため、ほとんど休みがありません。そのため、まとまった休みがとれそうときにはよく旅行へ行きます。旅の目的地はごはんが美味しいところ。食べることが大好きなので、いくつかお店をピックアップして行くことが多いです。最近では金沢で食べた「のどぐろ」がとても美味しかったので忘れられません。



# おかげさ言えば、 思う存分学べるのは今だけです。



芦屋市立岩園小学校 教諭

**高橋 那津美** *Natsumi Takahashi*

**Q** 大学院での研究内容を教えてください。

**A** 大学院では、「探究のはじまり」における教師の役割—J・デューイの「思考の方法」を中心に—を修士論文のテーマとして研究していました。子どもが「教師から課された課題を解く」という学習状況は、特に学校教育の現場ではたくさんあることだと思います。教師のすることの多さ、子どもが学習しないと決められている内容の多さなどから考えると、現実的には「課題を解決する」という状況は仕方ないことです。しかし、本来学ぶという行為は、「自分から問いを持ち、その問いを解決したい」と思えた時点から始まるものであり、そうすることでしか子どもは本当の思考を働かせない、といったデューイの理論があります。彼の理論をもとに、その思考の過程の中で教師はどのような役割を果たすことができるのかを研究していました。

**Q** 現在の研究分野・仕事内容とその面白さは何ですか？

**A** 私は、いま芦屋市の小学校で5年生の担任をしています。教師として働き始めて3年目になります。今まで、初任のころから5年→6年→5年と、珍しいことに高学年ばかりを担当しています。教師をしていると、どうしても楽しいことばかりではなく辛いこと・大変なこともたくさんあります。(どのお仕事も、そうだと思いますが)しかし、教師の仕事の面白さは、自分が良いはたらきかけをした分だけ、子どもが変容を見せてくれるところです。また、昨年度に初め

て担任の子どもたちを卒業させたときには、言葉にできない気持ちになり、それまでの中で1番「教師になってよかった」と思うことができました。

**Q** 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

**A** 小さいころから、祖父の影響で教師になることに憧れていました。しかし、幼稚園の先生になりたくなったり、中学校の体育の先生になりたくなったりと、その時々で何の教師になりたいのかは曖昧でした。そんな中、大学2年生のときにスクールサポーターで出会った子どもたちに衝撃を受け、今からふりかえると、それが小学校の教師になることを決めたきっかけだったように思います。その時に出会った子どもたちは2年生。それまで、大人になってから小学生と関わる機会がなかったので、自分の子どものころを想像してしかいませんでした。しかし、実際に出会った子どもたちは授業中に歩き回るのが当たり前、喧嘩が数分刻みで起こることが当たり前…そんな状態でした。私ははじめ、衝撃を受けました。週に1度しか行くことはありませんでしたが、関わり方に悩み、「教師ってこんなに大変なのか…私にはやっていけないのでは…」と思いました。そんな中、私は1年間なんとか関わり続けました。1年間が終わった時、私は子どもたちのことをかわいいなと思うことができました。言葉は厳しいですが、そのように荒れてしまったクラスの子もたちと自分なりに関わり続け、最終的にかわい、そう思えたことで私は教師になりたいという自分の気持ちに自信が持てたような気がしました。

## ■ プロフィール

### PROFILE

2014年 武庫川女子大学文学部教育学科卒業  
2016年 武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻修了  
(取得学位: 修士 (教育学))

## ■ ワークライフバランス

### WORK LIFE BALANCE

大学卒業→教員採用試験に合格(猶予)→大学院修士課程修了  
→兵庫県で教職員(芦屋市採用)

**Q** 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか？

**A** 私は、とにかく子どもと関わる機会をたくさん作りました。自然学校のリーダー、スクールサポーター、キャンプの引率…など、可能な限りたくさんの機会を作りました。しかし、それは厳密にいうと教師になってからの方が役に立ちました。教師になるために努力したことは、とにかく勉強することでした。座学だけではなく、教育に関する本や色々な知識に触れられる本など、とにかく自分に知識を入れるようにしました。大学生とはいえ、まだまだ知らないことも多かった私だったので、とにかく「知らなくて恥ずかしい」と思われてしまうようなものは大学生のうちに少しでも減らそうと努力しました。

**Q** 大学院を目指す(後輩)女性へアドバイスをお願いします。

**A** 私は、大学院進学を考え始めたときが大学3年生の終わりのころでした。それまで教師になること(教員採用

試験に合格すること)をゴールにしていた私は、ふと教師になってからのことをイメージしてみました。想像してみればみるほど、教師になって5年以上が過ぎたころから、今のままの大学生活経験では「教師としての成長ができないのではないか」と考えるようになりました。教師になってからの方が実は時間が長く、本来のゴールは「良い教師」になることであるはずなのに、そこを考えた時「今のままではよくない」と強く思うようになりました。そんな中で出した答えが大学院進学でした。周りの友達は働いて人生のステップを着々と進めていっている中、自分は取り残されているような気持ちになったときもあります。しかし、私たちは女性である以上、どれだけ社会が変わっていっているとはいえ、まだまだ女性は家庭を優先にすることがよくあります。そんな年齢になってから、「学び直したい」と思っても実現できないと思いました。おかげさ言えば、思う存分学べるのは今だけです。私は大学院に進学してから教師になることを選んで、本当によかったと思っています。



## Spotlight

### ストレス解消法

私は、社会人になる少し前にミラーレスカメラを買いました。それをきっかけに、私はすてきな風景を写真に撮るのが趣味のひとつになりました。良く撮れた写真を後から見返していると、とても充実感を味わえるからです。私は、疲れてくると自然いっぱい場所に行きたくなります。自然いっぱいの場所に訪れて、その見た風景を写真におさめることで少しストレスが発散されます。あとは、ひたすら睡眠をとること。社会人になってから、特に睡眠の大切さに気付かされました。



# クライアントさん自身が気づきを得て 日常生活に戻っていかれることに寄り添います。



(医) 松田クリニック・メンタルヘルス健育研究所  
**吉岡 由美** *Yumi Yoshioka*

■ プロフィール	PROFILE	■ ワークライフバランス	WORK LIFE BALANCE
1999年	武庫川女子大学文学部人間関係学科(現心理・社会福祉学科)卒業	2001年	2001年精神科クリニックにて勤務→2002年臨床心理士資格取得→2004年～2009年武庫川女子大学発達臨床心理学研究所助手として勤務→その後は医療、教育、産業分野など様々な現場で非常勤臨床心理士として勤務→2018年精神保健福祉士資格取得→2019年公認心理師資格試験合格
2001年	武庫川女子大学大学院文学研究科心理臨床学専攻(現臨床心理学専攻)修了(修士(文学))	2011年	
2011年	武庫川女子大学臨床教育学研究科臨床教育学専攻(臨床心理学)博士後期課程単位取得満期退学		

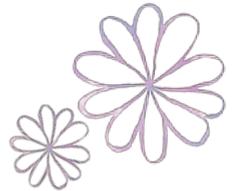
**Q** 大学院での研究内容を教えてください。

**A** 大学4年生からゼミで小学生のプレイセラピー(子どもの心理療法)を担当し、そのケースをもとに母娘関係について修士論文の研究テーマにしました。院生の時には、京都で開催されていたユング心理学の勉強会(現在の日本ユング派分析家協会)に通ったり、様々な事例検討会に参加してみたり、よく分からないながらも心理臨床の世界に足を踏み入れたことが嬉しかったことを覚えています。



**Q** 現在の研究分野・仕事の内容とその面白さは何ですか？

**A** 主な仕事は、心理療法やカウンセリングと呼ばれる臨床心理面接、心理検査を実施することです。クライアントさん(相談に来られる方)達が日常生活をスムーズに送ることができるよう、物事のとらえ方・考え方について一緒に考えたり、誰にも話せない思いを語ったりする空間(場所・時間)を提供し、クライアントさん自身が気づきを得て日常生活に戻っていかれることに寄り添います。劇的に良くなることはなかなかありませんが、ほのかな良い変化や思いもよらない偶然が起こったりすると思わずにんまりします。言葉で説明しづらい出来事ですが、こういう時にこの仕事は面白いと感じます。



**Q** 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

**A** 大学生の頃は、学力的な自信も心理臨床に携わる覚悟もなく、自分が臨床心理士になるとは思っていませんでした。4年生になり、就職活動もほとんどせずに卒論に没頭していた時、ゼミの先生に翌年新しくできる大学院への進学を勧められて受験、進学しました。修了しても同期の中で私だけが心理職に就けず普通のアルバイト生活をしていました。ある精神科クリニックで心理士を募集していると聞き、(他の同期は就職して誰も応募できないので)私が推薦され、採用となりました。心理臨床の仕事についてはもちろん、社会人としても一からたくさんのことを教えて頂きました。この職場での経験が、臨床心理士として仕事をしようと積極的に思うきっかけだったと思います。



**Q** ON/OFFの切り替えのコツは？

**A** 通勤電車の中では好きな音楽を聴きながら仕事とは関係のない本を読むことが多いです。あとは、演劇を見に行くのも好きで、面白そうだなと思ったら仕事帰りにフラッと見に行きます。



**Spotlight**  
**私の癒し**

以前ネコを飼っていたことがあり、ネコ柄物には勝手に身体が引き寄せられるようになりました。今では鞆の中はネコ柄だらけです。またいつか、ネコを飼ってみたいなあとも思っています。



# 「好きな事を、好きな時に、好きなだけやる」 ことが大切だと思います。



武庫川女子大学 健康運動科学研究所 嘱託助手  
**北浦 舞** *Mai Kitaura*

## ■ プロフィール

## PROFILE

2013年 武庫川女子大学文学部 健康・スポーツ科学科卒業  
2015年 武庫川女子大学大学院健康・スポーツ科学研究科修士  
取得学位：修士（スポーツ科学）

## ■ ワークライフバランス

## WORK LIFE BALANCE

大学卒業→大学院在学中ティーチングアシスタント&学友会  
競技スキー部の外部コーチ→大学院修士課程修了→健康・ス  
ポーツ科学科の教務助手(2年)→現在：健康運動科学研究所の  
嘱託助手&学友会競技スキー部の副部長

Q 大学院での研究内容を教えてください。

A 元本学講師の小笠原一生先生の元で「重心シフトのバイオフィードバックシステムによるスキーバランス能力の定量化」について研究を行いました。  
スキー選手は他のスポーツ選手より重心(足圧中心)を移動させる能力が高いのではないかと疑問から生まれた研究でした。そして重心を移動させている感覚を視覚化してフィードバックするシステムも構築しました。実際にスキー選手の方が、狙ったところへ重心を移動させる速さが優れていることが分かりました。

Q 現在の研究分野・仕事の内容とその面白さは何ですか？

A 研究の分野は、バランス能力に着目していますが、今私の中でホットな事は、ウェアラブル端末型の活動量計を使った女性と運動に関する研究です。  
健康運動科学研究所の仕事は、大学院の入試や教務、実験室の管理、年1回のシンポジウム開催などに携わっています。研究所だけでなく、健康・スポーツ科学科の授業や学外実習にも携わっています。仕事の面白さは、様々な実

験に立ち会えたり、シンポジウムの運営を学べたり、学生さんと研究や授業で関わる際に少しばかりですがお役に立てることです。

Q 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

A きっかけは2つです。1つ目は、大学教員のスペシャルな指導方法、「できない子をできるようにする」を目の当たりにした事です。想像してください、運動能力の異なる女子大生全員がハンドスプリングを体得する光景を。私は高校(ウィンタースポーツの専門学校)時代に出会ったコーチに憧れて、コーチ資格を取るために大学に進学したのですが、大学教員は授業・コーチングともにスペシャリストであることを知り、大学教員に憧れを持った事です。  
2つ目は、恩師の言葉を受けて。本学名誉教授であり元スキー部顧問の永田隆子先生の「私の後任になってほしい、スキー部をよろしく。」という言葉。そして、大学院の指導教員である小笠原一生先生「研究向いてると思うよ。楽しそうにしている。」という言葉を受けて武庫川女子大学へ残れるよう今の進路に進みました。



Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか？

A 夢ができたときのために、している事があります。それは、なんでも「できる」ようにしている事です。人よりできるという事は「カッコイイ」と思っています。自分に「なんでもできる」と暗示をかけています。つまり、努力している事は、知らない事はすぐ調べる事、やりたいと思ったことは努力を見せずに「できる」状態で披露するようにしている事です。



## Spotlight

### 私の癒し

私の癒しは、家族と仲間と行くバイクツーリングです。運転を楽しむ事はもちろんですが、日常から離れることによって、人生の先輩である親や仲間と素直に相談ができるようになり、よくコーヒーを片手にアドバイスをもらっています。長時間の運転による心地よい疲労感と満足感に浸るのが何よりの癒しです。



Q 大学院を目指す(後輩)女性へアドバイスをお願いします

A 学部の学生さんに「大学院は勉強好きな頭の良い人が行くところですよ」と質問されますが、私は「なぜ?」や「好き」を追求したい人が心置きなく学べる場所が大学院だと思っています。「好きこそ物の上手なれ」という言葉がありますが、私は、小・中学校の半分の時間を雪国でスキーの練習と海外遠征に充て、高校もスポーツ専門学校へ行きましたので勉強は必要最低限しか学んでいませんでした。しかし、そんな私でも大学でスポーツを学ぶ事が好きになり、何でも「知りたい」と思ったことがきっかけで気づけば江江特待生や学長賞をいただいていた。そして、もう少し好きな事をしたいと思い大学院へ進学しました。ただ「好きな事を、好きな時に、好きなだけやる」ことが大切だと思います。



# 生活のための仕事であり、 仕事のための生活ではない。



西日本旅客鉄道株式会社

**吉岡 寛子** *Hiroko Yoshioka*

## ■ プロフィール

PROFILE

2007年 武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科建築デザインコース卒業  
2009年 武庫川女子大学大学院生活環境学専攻科生活環境学専攻修士

## ■ ワークライフバランス

WORK LIFE BALANCE

2009年西日本旅客鉄道株式会社入社→京都支社草津保線区草津管理室配属→2011年京都支社草津保線区に異動→2012年近畿統括本部吹田保線区に異動→2013年結婚→2014年第一子出産、育休取得→2015年復職→2017年第二子出産、育休取得→2018年復職、近畿統括本部 高槻保線区に在勤

Q 大学院での研究内容を教えてください。

A もともと、物事を俯瞰して見るのが好きで、地図を見て地形をみたり、街の仕組みを知ることが好きで、大学3年に、都市計画分野を専門にする、都市デザイン研究室を選びました。  
配属されてからはさらに焦点を絞り、人々から注目を浴びる街が、必ずしも中心市街地でなく、住宅地のように住むための街が取り上げられることに関心を持ち、主に用途地域と、市街地形成の変遷との関係性について私鉄沿線を事例に調べ、その手法を今後の街づくりに活かせないかと考えました。  
研究室の三宅准教授からは、ビジュアルを使わずに、データを蓄積して証明してみても、とアドバイスを受け、とにかく歩いてデータを収集しました。  
物事を俯瞰するのが好きとはいえ、客観的に自分の言いたいことを表す苦労と、自分の意見を社会にアウトプットする責任や怖さを経験したことが、情報の確度にこだわるいまの仕事への姿勢につながっていると感じます。



Q 現在の研究分野・仕事の内容とその面白さは何ですか？

A 線路設備の保守管理をしています。いわゆる線路のお医者さんです。  
かれこれ10年選手となりました。  
いま担当しているのが、新大阪から京都までの線路です。ミリ単位での管理のなか、手を尽くせば尽くすほど線路が良くなるのが目に見えてわかるのが面白みだと思います。  
また現状維持ではなく、さらなる高みを目指し続ける風土があるのも、技術職場の面白さだと感じています。入社して10年の間に二度の育休を取得し、いまは、時短勤務で働いていますが、時短といえど、中堅なので仕事の量は変わらず、いかに時間内に仕上げるか、生産性をあげるか、という点で、始業と同時にヨーイドンで競技をはじめのような感覚で、時間内に終わらせる爽快感を感じられるようになりました。  
入社してすぐは、現場での検査業務を経験し、3年目から、スタッフ業務につき、外注工事の設計、立案、資材調達から決算、保安面での調整業務、予算管理など、ひと通りの業務を経験しました。  
多くの系統が支える鉄道事業にとって、系統間の調整が非常に重要ななか、自分が仕事を動かしている実感も湧いていて、それがやり甲斐につながっています。

Q 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

A 子供の頃から、お出かけといえば家族で電車に乗って出かけていて、その道中のワクワク感が大好きでした。パスとはちがい、決まった線路を走る安心感もありました。そのうち、生活になくはならない、インフラ関係に就職したいと思うようになり、各種電鉄会社を受験し、現在の会社に内定をもらった形です。技術系と一括りに受験しましたが、配属されたのが線路の保守部門で、男性30人の職場に女性が2人。大学時代の専門分野を直接的には活かすことはなく、一から土木分野、鉄道の専門知識を勉強することになり、慣れない環境下で、毎月テスト、テストで大学受験よりも勉強した覚えがあります。

Q 休みの日は何をしていますか？

A 専ら、子どもたちと一緒に遊ぶ休日ですが、父母にも息抜きが必要。

交代で子守をして、自由時間をもらっています。映画を見たり、友達と会ったりしています。  
一番思い出に残っているのは、4歳になる電車好きの息子と2人で、栃木県までSLを見に旅行したことです。一歳の娘と夫はお留守番で、はじめて仕事以外で家族が離ればなれになりましたが、普段4人でいるのと違い、子と一対一、じっくり向き合えたことがよい経験になりました。  
今年の6月に経験した、大阪北部地震や、台風による影響で、長い間、朝しか子どもたちの顔が見れない日が続き、自分の人生で何がいちばん大事かが、鮮明になりました。  
生活のための仕事であり、仕事のための生活ではない。この言葉が、今の働き方の根底にあります。  
大学時代の研究や、就職活動においても、自分が一番大事にするものは何か、を考えることは非常に大事だと思うので、折に触れ、自分を振り返り、考えを整理することを実践してほしいと願っています。

## Spotlight

### マイブーム

子どものおもちゃを段ボールで作ることが好きです。  
万能な素材の段ボールなら、子どもが乗っても丈夫なおもちゃをつくることができます。  
いかにローコストで作るかや、ギミックを考えながら、子の昼寝中に作業に没頭する時間がマイブームです。



# 住民の方の食生活改善の一助となることが 大変嬉しく思っています。



帝塚山学院 人間科学部 食物栄養学科 講師

**小林 知未** *Tomomi Kobayashi*

## ■ プロフィール

## PROFILE

2004年 武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科卒業  
2006年 武庫川女子大学大学院生活環境学研究科食物栄養学専攻管理栄養学コース修了  
(取得学位：修士(生活環境学))  
2010年 奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程共生自然科学専攻修了  
(取得学位：博士(学術))  
2013年 武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科助手  
2014年 武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科助教  
帝塚山学院人間科学部食物栄養学科講師

## ■ ワークライフバランス

## WORK-LIFE BALANCE

武庫川女子大学卒業→武庫川女子大学大学院修士課程修了→  
奈良女子大学大学院博士後期課程修了(博士学位修得)・武庫  
川女子大学で助手として働き始める→同大学助教を経て→帝  
塚山学院大学講師へ→現在に至る

Q 大学院での研究内容を教えてください。

A 子どもに対して食教育を行いたいと考え、大学院博士後期課程への進学を決めました。しかし、当時日本では、食教育を行っても子どもの食事がどのように変わったのか評価をするための方法がありませんでした。そこで、子どもの食事調査法(子ども版食物摂取頻度調査法)を開発することにしました。食物摂取頻度調査法という方法を開発するためには、多人数の食事記録が必要となります。まずは手軽に実施可能な食事記録法を開発し、600名近くの子ども(3-11歳)の食事調査を実施し、食物摂取頻度調査法を開発しました。また、開発した食物摂取頻度調査法が本当に子どもたちの食事摂取内容を把握可能であるのか、100名以上の子ども(3-16歳)を対象に、妥当性調査を実施しました。このように、大学院では主に食事調査についての研究を行っていました。

Q 現在の研究分野・仕事の内容とその面白さは何ですか？

A 現在の研究分野は「公衆栄養学」「栄養教育論」です。色々なライフステージの方に栄養教育を実施することにより、食生活にどのような影響があったのか等調査しております。仕事の内容は研究活動を行ったり、大学で講義を行ったりしています。ヒトを対象とした研究では調査中や解析結果で思いもしないことが起こることがあります。悩んだり、困ったりすることが多々ありますが、そんな時は研究メンバー間で相談し合い、問題に向き合うことで解決するように心がけています。苦勞の先に何か新しいことが分かった時に研究って面白いな～と実感しています。また、自分たちが研究した内容を食教育として、一般住民の方へ還元し、住民の方の食生活改善の一助となることが大変嬉しく思っています。

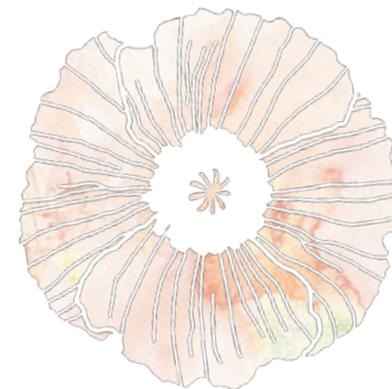
Q 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

A 元々人と話すのが苦手だったのですが、院生の頃に、先生から「公衆栄養学はヒトを対象にした研究分野だから、まず、ヒトを好きになりなさい」と教えていただきました。この言葉がきっかけとなり、公衆栄養学の分野にどっぷり浸かることになりました。また、武庫川女子大学で助手として採用された研究室で、運よく大学院で学んだことを活かせる研究のお手伝いを行うことができました。また、研究室でお世話になった先生、出会った学生、院生から様々な刺激を受け、勉強させていただきました。これが現職に至ったきっかけだと思います。



Q ストレスをため込まないコツは？

A ストレスが溜まると、どんどんマイナス思考に陥ってしまいます。そんな時は思い切って旅行に行くことがオススメです。旅先は国内であっても海外であっても良いと思います。ストレスをため込まないためには、ありきたりではありますが、色々な所に行って、綺麗な自然や風景を見たり、美味しいものを食べたりし、非日常的な生活をおくる余裕をもつことが大切です。はじめは日帰りでも良いのでぜひ、外に出てストレスを発散してみてください。



# 色彩は私たちにとって非常に身近なもので、 さまざまな生活シーンで活用されています。



武庫川女子大学 情報メディア学科 講師  
**和泉 志穂** *Shiho Izumi*

## ■ プロフィール

## PROFILE

2004年 武庫川女子大学生活環境学部情報メディア学科卒業  
2016年 武庫川女子大学大学院生活環境学研究所博士課程修了博士(情報メディア学)

## ■ ワークライフバランス

## WORK-LIFE BALANCE

大学卒業後、嘱託助手として大学で勤務。任期(5年)満了のため退職し、フルタイムの働き方から、曜日切り売りスタイルへと働き方をシフトする。研究所、大学、NPO法人での助手や職員の仕事を非常勤として兼務し、曜日ごとに違うコミュニティ・場所での働く、まるで毎日が小旅行のような生活を過ごす。その後、大学で非常勤講師を務めることになったことをきっかけに、フリーランスとしての仕事も開始。働きながら大学院博士後期課程へ進学(修士課程は免除)し学位取得。非常勤講師などを続け、現職。

**Q** 大学院での研究内容を教えてください。

**A** 生活者にとっての色彩の重要性や、マーケティングにおける色彩の可能性を提示することを目的に、1980年代以降に登場した経験と感情、および感性に着目したポストモダン・マーケティングという視点を用いながら、1900年代以降の色彩とマーケティングの潮流を整理し、カラー・マーケティングの体系化を行いました。過去の論文や企業活動をレビューする他に、製品における色彩の重要性や五感との関係性、五感間の関係性を検討するための事例研究も実施しました。そのなかで、感性マーケティングとしての色彩の重要性を再認識し、現在は、イメージ全体を色彩心理学と認知科学にもとづき9つに分類した感性マーケティング手法WAT9を用いた研究をしています。

**Q** 現在の研究分野・仕事の内容とその面白さは何ですか？

**A** 日々の暮らしの中で、色彩は私たちにとって非常に身近なもので、さまざまな生活シーンで活用されています。そのような色彩やデザインについて、感性や文化、マーケティングなどの側面から調査・分析を行い、生活の質の向上

や商品のブランディングに役立つコンテンツの研究・発信に取り組んでいます。色彩の研究対象は幅広く、身近なファッションやメイク、インテリアから、色の文化、絵画に見る色の使われ方、カラーバリエーションによる心理など、それぞれが面白く、興味が尽きません。また、研究とは別に、ミュージカルやよさこいなどの現場での衣装制作などにも協力させていただいていました。そのような活動を通し、舞台監督や照明技官の方々とお話をさせていただくなかで、生活の場以外での魅せる色彩の可能性も感じると同時に、そのような現場での体験を学生のみなさんに少しでも経験してもらおうチャンスはないものかと考えています。

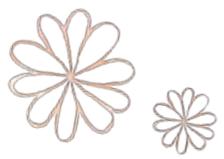
**Q** 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

**A** もともとは、家庭科教員になりたいと思いましたが、生活情報学科(現:情報メディア学科)に進学しました。学科では、陶芸や機織りのようなアナログ情報から、文化、生活、マーケティングにプログラミングまで、本当に幅広い“情報”に関する内容に触れることができました。当時の先生方が楽しそうに仕事をされているのを見て、私も大学教員になってみたいと思ったのが大学3年生の頃です。情報メディア学科に進学していなければ、この職に注目も憧れも

しなかったかもしれません。その後、一般就職で内定をいただいていたのですが、学科の嘱託助手(副手)の採用公募があり、内定を辞退して大学助手という仕事を選択しました。実際に大学教員の仕事をサポートすることを通して、とうてい私には務まらない仕事であると思い、一時は大学教員になってみたいという夢を諦めていました。しかし、「和泉さん、色彩を教えてください」という恩師の一言がきっかけで、心機一転、非常勤講師をさせていただきながら、大学院に進学し、多くの先生方から叱咤激励いただきながら博士号を取得した結果、現在に至ります。

**Q** ご自身はどんな子どもでしたか？

**A** 父の仕事の関係で、転校を繰り返す幼少期を過ごしました。小学校は4回ほど転校しています。最短で半年、最長で3年という期間を同じ小学校で過ごしました。そのため、初めは友達と別れることがとても寂しいことだと思っていたのですが、回を重ねるうちに、転校することで「新たな物語が始まる!」「友達がいるんなところに行ける!」とプラス思考に考えるようになっていました。当時は物語を読むことが好きだったので、自分が物語の主人公だと錯覚していたのかもしれませんが、幼馴染みという関係の友達はいませんが、小学生の時に毎日一緒に遊んでいた友達とは、今でも年賀状の交換をしています。



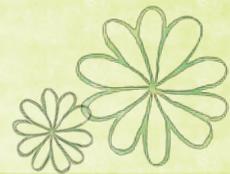
## Spotlight

### 私の癒し

海外へ行くついでに、現地で生地やパーツを見ることが私の癒しです。その土地ごとの配色があり、素材やパーツがあります。それを見るだけで楽しく、現地の方とジェスチャーで交渉して購入する一連のやりとりが大好きです。海外旅行の際は生地市場などへは必ず赴くようにしています。



# 時間をかけ自分でデザインし、描いた「線」が実際に形になる



株式会社日建設計 設計部門

尾崎 綾 *Aya Ozaki*

## ■ プロフィール

PROFILE

2015年 武庫川女子大学生生活環境学部建築学科卒業  
2017年 武庫川女子大学大学院生活環境学研究科建築学専攻修了

## ■ ワークライフバランス

WORK LIFE BALANCE

大学卒業→大学院修士課程修了→株式会社日建設計入社

Q 大学院での研究内容を教えてください。

A 大学院の演習では、主にチームで実物大の設計を行いました。学部時代の設計課題は一人で完結するものであったため、チームでの意思疎通や役割分担、スケジュール管理など、様々な点で意識を変える必要がありました。また施主や施工者との打ち合わせなどを修士の段階で経験できたことも、設計者の責任感を体感する上で良い経験になったと思います。

また、mm単位で設計する機会が多いのも大学院ならではの経験でした。実物大の模型で検討し、1分の1のスケールで体感することで、設計に必要な不可欠なスケール感覚を身近に感じることができました。

Q 現在の研究分野・仕事の内容とその面白さは何ですか？

A 現在は意匠設計として建築の設計に携わっています。まだ入社日は浅いですが、6月に自分が設計した建物が竣工しました。設計の面白さは、時間をかけ自分でデザインし、描いた「線」が実際に形になること、またその建物が人々の役に立ち、実際に使用され、生活の一部になることではないかと思っています。

また、たくさんの人が関わって一つの建物がで

きるため、チームワークや協調性は設計者に求められる能力としてとても重要なものであると思います。周りの先輩方の意見を聞きながら、自分のやりたいことも反映させるために、勉強の毎日です。「もう一度一緒に仕事をしたい」「もう一度この人に設計を頼みたい」と思われるような設計者になるために、日々努力していきたいです。

Q 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

A 昔から絵を描いたり、工作をしたり、物を作ることが好きで、デザインに関わる仕事がしたいと思い、建築を志しました。そんな中でも建物が出来上がるまでの全体を統括する「意匠設計」に携わりたいと思い、組織設計事務所の設計部に入社しました。建物ができるには意匠設計、構造設計、設備設計はもちろんのこと、ランドスケープや、インテリアデザイン、コスト管理に施工監理、申請業務など、ここには書ききれない程様々な人の力と知恵が必要となります。それらを統括することは責任が重く、必要な知識も膨大なためとても難しいですが、やりがいや達成感は一歩だと思っています。

Q 夢の実現に向かって努力したことはどんなことですか？

A 学部時代は、毎月出される課題をこなすことに精一杯でした。今もそんな状況は変わりなく、毎日与えられた仕事に追われているのが現状です。学生時代とは異なり、仕事には責任が生じるため、スケジュール管理がとても重要になることを痛感しています。毎日遅くまで仕事をし、疲れる時ももちろんありますが、自分が設計した建物が実際に出来上がるときの感動をまた味わいたいという思いで毎日仕事に取り組んでいます。また、一級建築士の資格勉強も仕事と並行で行う必要があり、入社1・2年目は平日仕事終わりと毎週土日には試験勉強をしていました。なんとか1次試験に合格することができましたが、資格取得がゴールではなく、仕事をしていく上で必要な知識は山のようにあります。これからも夢の実現に向け日々努力を重ねていきたいです。

Q ご自身はどんな子どもでしたか？

A 一度熱中すると飽きるまでが長いタイプでした。一つのことに集中しすぎて周りが見えなくなることは今でもあるので、周りを見渡す癖をつけるよう努力中です。また、昔から絵を描いたり、工作をしたりすることが好きで、根っからのインドア派でした。外で遊ぶのは苦手でしたが、旅行や散歩をすることは好きでした。その場所の持つ雰囲気や印象は実際に足を運ばないと感じるができないものもたくさんあると思うので、休みの日に引きこもってばかりではだめだな、と反省しています。



## Spotlight

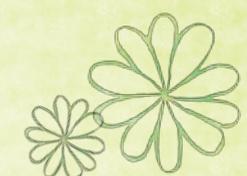
### ストレス解消法

仕事柄、忙しさに波があり、休みをなかなか取れないこともあります。大きな休みが取れた際には、大学時代の友人等と旅行に出かけています。旅行に行くことでストレス解消になることはもちろん、国内外の建築を見ることはとても勉強になり、一石二鳥!そんな息抜きを目標に、忙しい仕事も頑張ることが出来ます。





# 研究と音楽療法実践が 続けられていることが幸せです。



武庫川女子大学 音楽学部 非常勤教務助手

**諸岡 由依** *Yui Morooka*

## ■ プロフィール

### PROFILE

- 2012年 武庫川女子大学音楽学部器楽学科  
社会音楽・音楽療法コース卒業
- 2014年 武庫川女子大学大学院文学研究科臨床心理学専攻修了  
(修士：臨床心理学)
- 2017年 名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理発達科学専攻  
博士後期課程入学（在籍中）

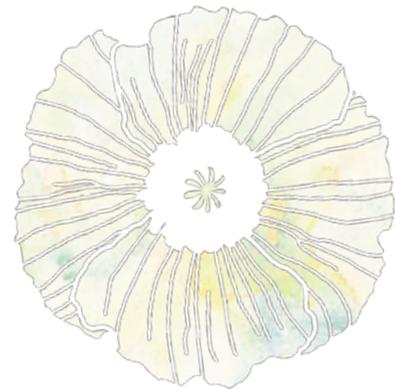
## ■ ワークライフバランス

### WORK-LIFE BALANCE

武庫川女子大学(社会音楽・音楽療法コース)卒業→武庫川女子大学大学院修士課程(臨床心理学)在学中に【日本音楽療法学会認定音楽療法士】【保育士】取得・大学院修了→民間の保育園に就職・【臨床心理士】取得→名古屋大学大学院博士後期課程入学と同時に保育園を退職し、武庫川女子大学音楽療法研究室の教務助手として就職、現在に至る。

**Q** 大学院での研究内容を教えてください。

**A** 修士課程の時から、子どもへの歌いかけと母親の心理面との関連について研究を続けています。お母さんが子どもに歌いかけるといふ行動は、時代を超えて、世界中でみられる育児行動の1つです。私の研究では、アンケートや実践調査、実験を通して、歌いかけが歌い手であるお母さんにもたらす効果について明らかにすることを目指しています。まだ研究は途中段階ですが、子どもに歌いかけることは、お母さんの育児に対する自信を高めたり、気分の安定に役立つことがわかってきました。育児支援の一環として歌いかけの活用方法を提案できるよう、引き続き頑張ります。



**Q** 現在の研究分野・仕事の内容とその面白さは何ですか？

**A** 音楽療法研究室ラビッコルームでは、発達障害や発達に心配のあるおさまと音楽を通して関わっています。ことばによるコミュニケーションが得意ではないおさまの場合にも、音楽活動の中では、表情、動きのリズムやタイミングによって「今、つながった!」と感じる瞬間がたくさんあります。研究でも、赤ちゃんの好きなお母さんの声、リズムや抑揚が含まれる歌いかけを通じた母子のコミュニケーションについて考えています。このように、ことば以外の手段で相手と気持ちよくコミュニケーションがとれる音楽の力は不思議で、とてもおもしろいと感じています。



**Q** 現職に進むことになったきっかけは何ですか？

**A** 私は、小さな頃から保育士になることが夢でしたが、高校生の時にピアノの先生から聞いた「音楽療法」に興味を持ち、本学の音楽学部に進学、大学院では臨床心理学を専攻しました。在学中に保育士資格を取得し、大学院修了後は保育園に就職しました。仕事の合間に修士論文を投稿論文としてまとめ直しているうちに、このテーマについてもっと研究したい!と思うようになり、論文が採択されたことをきっかけに、博士課程に進むことを決意しました。そして、ちょうどそのタイミングで現職の助手のお話を頂き、昨年度から博士課程の学生と音楽療法研究室の助手として新たなスタートをきることができました。私がこの進路を迷いなく選択できたのは、大学、大学院の恩師らから現場での臨床実践と研究の両立を後押ししていただいたこと、そして両親

の支えがあったおかげだと思います。時間と体力の余裕がなくなり心が折れそうになることもありますが、研究と音楽療法実践が続けられていることが幸せです。

**Q** ON/OFFの切り替えのコツは？

**A** できるだけ友人と会う時間を作ったり、好きなアーティストのライブにも積極的に足を運び、リフレッシュしています。細かいところであれば、どれだけ疲れても食欲旺盛なタイプなので、「これを食べたら分析に取りかかろう!」「ここまでできたらあれ食べよう!」と、食べ物でやる気スイッチを操作しています。

## Spotlight

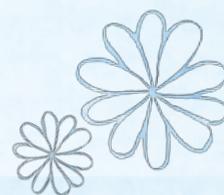
### 私の癒し

愛犬のチロル（ボーダーコリーの男の子）です。研究や仕事で朝早いときも、夜遅いときも側にいて付き合ってくれます。とてもおっとりした性格で、このペビーフェイスにいつも癒やされます♪





# より良い商品の 開発に繋げていくことは とても楽しいです。



大鵬薬品工業株式会社 コンシューマーヘルスケア開発企画部 研究室

**藤本 有未** *Yumi Fujimoto*

## ■ プロフィール

PROFILE

## ■ ワークライフバランス

WORK LIFE BALANCE

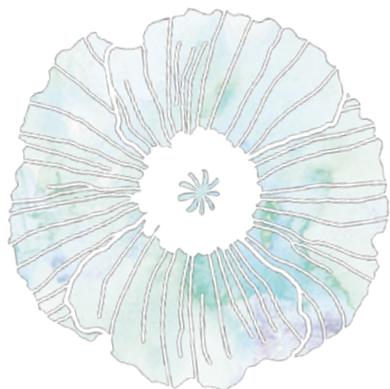
2012年 武庫川女子大学薬学部薬学科卒業

2016年 武庫川女子大学大学院薬学研究科薬学専攻修了

大学卒業→大学院博士課程修了→大鵬薬品工業株式会社入社

Q 大学院での研究内容を教えてください。

**A** 薬剤学研究室に所属し、固形製剤を選考していました。水に溶けない薬成分を、水に溶けやすくして体に吸収しやすくするための製法を研究していました。どんな画期的な薬でも、適切な製剤にしないと効果が無いと知って、とても重要な分野だと感じたのが研究したいと思ったきっかけです。  
薬成分を顆粒や錠剤に調製した後、その製剤の評価を行うため、製造技術から分析技術、動物実験の技術などの幅広い分野の知識が身につけられました。



Q 現在の研究分野・仕事の内容とその面白さはなんですか？

**A** 現在は、大鵬薬品工業でヘルスケア商品の製剤化研究を行っています。固形や液体など色々な製剤の商品を開発しています。主に、製剤化検討と分析方法の検討を行うため、大学・大学院で学んだ知識が大いに役立っています。ただ、液体や半固形製剤については知識不足で勉強の日々ですが、先輩たちの助力を受け、頑張っています。逆に、私の知識が先輩の助けになった時は嬉しいですね。最近は開発も担当しており、どんな商品が求められているかを調査して、より良い商品の開発に繋げていくことはとても楽しいです。  
まだ、入社して3年も経っていませんが、既に開発に携わった商品がお店で売られています。お店で見かけたときは、すごく嬉しいです。



Q 現職を進むことになったきっかけは何ですか？

**A** 大学・大学院時代に得た固形製剤の知識を活かしたいと思っており、固形製剤の知識を活かすなら…とジェネリックやヘルスケアをメインに開発している会社へ就職活動しておりました。その時、所属していた研究室と共同研究を実施していた大鵬薬品に色々とお話を聞き、とても興味を持ったのがきっかけです。



Q 休みの日は何をしていますか？

**A** 大阪や神戸へ遊びに出かけています。今は徳島に住んでいるため、少し遠いですが、高速バスが便利なので意外に出かけやすいです。最近では、脱出ゲームや謎解きゲームにはまっているので、USJや心斎橋に行きます。普段使わない頭をいっぱい使うので、案外リフレッシュできるんですよ。また、常識にとらわれない柔軟な発想力が必要になるので、研究(仕事)にも役立つかな?と思っています。また、初対面の人と一緒にゲームすることもあるので、協調性や状況把握能力などが鍛えられます。ちょっと就職活動のグループワークっぽいですが…。  
案外、勉強になるので一度挑戦してみてください。新たな発見ができるかも…!

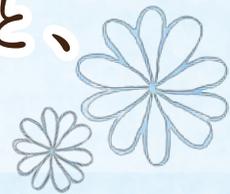
## Spotlight

### ストレス解消法

美味しいもの巡りです。食べるのが好きなので、色々食べ歩きしています。  
先日は香川へうどんを食べに行きました。美味しいので色々回っていたら6店舗も巡ってました(笑) ちゃんと運動?(観光)もしていますよ。まだ美味しいお店は沢山あるので、また行きたいです。



# 病棟で感じていた疑問を突き詰めてみようと、 進学を決意しました。



大阪大学医学部附属病院 看護部キャリア開発センター・教育実践室

谷川 茜 Akane Tanigawa

## ■ プロフィール

PROFILE

2004年 大阪大学医学部保健学科看護学専攻卒業  
2004年 大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
同教育実践室・看護部キャリア開発センター  
教育専従副看護師長（現職）  
2016年 武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学研究コース修了

## ■ ワークライフバランス

WORK LIFE BALANCE

大学卒業→就職→結婚→勤務しながら修士課程修了→  
出産→産休・育休→復職

Q 大学院での研究内容を教えてください。

A 研究テーマは、「電動ベッドにおける身体負荷を考慮した背下げ方法の検討」でした。ベッド上で生活する患者さんに対して、重要な看護ケアの一つが体位を変えることです。身体の向きを変えたり、ベッドの背もたれの角度を変えたりするのですが、その中でも特に、「ベッドの背もたれをどのように下げれば患者さんにとって安全で安楽なのか」と疑問に思い研究していました。

実は病棟で働いていた頃から「なぜこのような方法をするのだろうか?」と感じながらも、忙しい日々の中でじっくりと根拠を考えることができず、「こうするもの」と自分の中で解決してしまっていたことがありました。ところが、現職で看護技術を新人看護職員に教える立場になり、あらためて「経験ではなく、正しい根拠を伝えなくてはならない」と思うようになり、病棟で感じていた疑問を突き詰めてみようと、進学を決意しました。

Q 現在の研究分野・仕事の内容とその面白さは何ですか?

A 現職では、職員研修の企画・実施・評価、研究支援や実習環境の整備など、教育に関わる

ことを専従として担当しています。患者さんと直接関わることが少ない部署なので、異動したばかりの頃はなかなかやりがいを感じる事ができませんでした。そんな時に、当時の上司から「あなたに関わった新人が患者さんに良いケアをしてくれる、あなたに関わった指導者が新人に良い教育をしてくれる、と思ってみたら?」と声をかけて頂き、視界がパッと明るくなったのを覚えています。今では、研修で関わった新人達が一人前の看護師に育っていく過程をみるのが楽しいですし、新人時代に関わった人達が指導者になり、教育について悩み合うことができるのも楽しいです。

Q 現職に進むことになったきっかけは何ですか?

A もともと教育専従の看護師を目指していたわけではありません。きっかけは病棟で学生指導の担当者になったことでした。患者さんのことを一所懸命考えてケアしている学生さんを見ているのが楽しかったですし、学生さんが



「看護ってすごい」、「看護師になってがんばりたい」と言ってくれることも嬉しく、やりがいがありました。さらに、当時の上司からすすめられた臨地実習指導者対象の研修を受講して「人を育てるということ」の難しさとともに面白さをあらためて感じていたところ、現職への異動を打診して頂き、今に至っています。

Q ワークライフバランスを実現していくこと（工夫・努力していること）は?、ON/OFFの切り替えのコツは?

A 2018年の1月に出産を経験し、その年の4月から職場に復帰しました。仕事と家事、育児を限られた時間でやりくりするためには、「ON/OFFをしっかりと切り替えること」を意識しています。

息子を預けて保育園の門をくぐったら、『○○んのお母さん』から「教育担当の谷川さん」に切り替え始めます。通勤電車はメールチェックや講義資料の見直しなど、仕事の準備時間とし、職場で白衣に着替えたら本格的に仕事モードです。育児短時間制度を利用しているのでフルタイムではありませんが、自分のペースで動ける限られた時間を集中して働いています。その代わり、職場を離れたらしっかりと切り替えて、基本的に仕事は持ち帰らず、自宅では息子と過ごす時間を満喫します。

Q 大学院を目指す（後輩）女性へのアドバイスをお願いします。

A 学びたいことや突き詰めたいことができたら、思い切って進学して欲しいです。女性は、特に就職後は異動や転職、昇進や結婚、出産など様々な転機のタイミングによってなかなか進学に踏み切れないことがあると思います。私もその1人で、どれも中途半端になるならやめた方がいいかなと思っていました。しかし、恩師の「できるかなんてやってみないとわからないでしょ。やりたかったらやれるものだから、やりたいと思った時に全部やってみなさい!」という一言で腹をくくれました。研究ができたことはもちろん、看護が大好きな頼もしい仲間もたくさんでき、進学して本当に良かったです。学びたいと思った時が進学する1番のタイミングなので、できるかを悩まずに前進してみたいです。



取 り 組 み

調査広報・キャリア支援部門

女性研究者が、研究者としてキャリアを継続し積み上げていけるようキャリアサポートを行うとともに、女性研究者支援に関する取り組みを学内外に広報する

- キャリアパス設計支援
- 女性研究者ネットワーク構築
- 若手研究者スタートアップ支援
- 意識改革の推進 支援活動の広報

- ◆ロールモデルセミナー ◆ロールモデル集の発行
- ◆統計解析セミナー ◆ニーズ調査
- ◆ニューズレターの発行

女子中高生理系支援部門

女子中高生の理系分野に関する興味や関心を高め、進路意識の醸成やキャリア形成を支援するために、地元企業と連携しながらさまざまな授業やイベントを展開する

- ステップアッププログラム
- 中高生の理系に対する興味関心への喚起支援

- ◆体験授業 ◆理系女性研究者との交流
- ◆出前授業 ◆キャリア講座
- ◆サマースクール ◆企業、研究機関見学

関西圏女子大学ワーキンググループ

- 神戸松蔭女子学院大学
- 奈良女子大学
- 武庫川女子大学

関西圏女子大学連携部門

新たな共同研究の立ち上げを支援し、研究環境の整備とダイバーシティ化を推進する

- 関西圏女子大学との連携
- 異分野交流の活性化
- 共同研究立ち上げの支援

- ◆異分野交流会 ◆共同研究支援
- ◆異分野交流会冊子の発行

国際化支援部門

国際的に活躍できる、高い目標を持つ女性研究者を育成する

- 若手研究者スタートアップ支援
- アメリカの女性研究者との学術交流
- 海外の女性研究者、海外留学支援
- 海外での研究発表サポート

- ◆Skill Time in English
- ◆英書精読
- ◆WSUとの学術交流
- ◆英語プレゼンワークショップ

アメリカ分校 (MFWI) 1990年開校

